

第11回 KOGANEI 授業セミナー

2021年2月6日(土)

東京学芸大学附属小金井小学校

後援：東京都教育委員会・小金井市教育委員会

国語

『説明文でこえる学び』3年生
「あり」と筆者と自分

授業者
提案者

成家雅史

講師

東京学芸大学准教授
細川太輔 先生

筆者の目線で書かれた「あり」の世界。子供たちにも、自分と「あり」の世界がある。説明的文章にも、筆者が特に読み手を意識している言葉や論理がある。そのような叙述に着目して、筆者がどのように「あり」について観察したり調べたりしているのか、書かれているところから書かれていない筆者の姿を想像しながら読む。自分の言葉や論理をこえて伝わってくる筆者の思い、対象へのまなざしを読み、説明的文章を読み味わうことを目指す。

社会

『自己の更新を通じた深い学びの実現』
4年生「防災」

授業者
提案者

岸野存宏

講師

国土舘大学教授
澤井陽介 先生

学習を通して子供が変容することを目指すのであれば、その学習の前の子供の姿、学習の先にある目指す子供の姿とともに授業を考えていく必要がある。単元を通して子供がどのように自己を更新していくのか、その姿とそれを見取る手立てを4年生の新単元「防災」の学習を通して提案する。こうした状況だからこそ、45分の授業提案では話題にしにくい単元全体の流れ、学習問題の成立過程もお示しし、ご参会の皆様と学び合う時間にしていきたい。

算数

『問題の本質を見いだす子』
1年生「足し算」

授業者
提案者

中村真也

講師

國學院大學教授
田村学 先生

答えが出て子供の力は付いているだろうか? いいや付いていないだろう。本当に考えてほしいことを子供は考えているだろうか?
学習指導要領解説算数編に掲載されている数学的活動の図のBの局面(数学の問題→焦点化された問題)になる過程に課題意識をもち授業を構成した。第1学年「たし算とひき算」の授業を、動画および概要のスライドで提案する。田村学先生の御講演も必聴!

理科

『指導と評価の一体化』～汎用を目指して～
3年生「電気の通り道」/6年生「電気の利用」

授業者
提案者

小林靖隆

講師

文部科学省 学力調査官
有本 淳 先生

学習指導要領改訂に伴い、指導と評価の一体化が重要視されるようになった。私たちは、小学校理科の授業で、何に着目し、どのような評価方法をとればいいのか。ワークテストの点数だけに固執せず、子供たちにどのような力が身に付いたのかを確実に捉えたい。A区分の単元を取り上げ、理科のスタートである3年生の評価の見方と、小学校理科のゴールともいえる6年生の評価の見方を発達段階の違いを踏まえて提案する。

生活

2年生『未来にむかって自分たんけん』

授業者
提案者

富山 正人

講師

文教大学教授
小幡 肇 先生

本単元は、内容(9)「自分自身の生活や成長」と関わる単元である。生活科では、「自分自身への気付き」が大切にされてきた。ただ、これまで生活科を実践してきた中で、他の内容とは異なり、「自分自身を振り返る」という活動が中心となる本単元への難しさも感じている。子供たちが自分の成長を支えてくれた人に対して感謝の気持ちをもったり、自分のこれからの期待をもったりするためにはどのように活動を展開していけばよいのか。単元の進め方やそこでの子供の学びについて参会者の皆様と考えていきたい。

道徳

『探求型道徳授業の開発～自作教材～』
4年生「国や郷土を愛する態度」

授業者
提案者

遠藤信幸

講師

東京学芸大学教授
永田繁雄 先生

子供と教師がともに教材などから生まれてくる道徳的問題について、一人一人のよりよい考えを話し合い、見つける中で、一人一人の生き方やあり方を創っていきける研究を行っている。その研究の一つの切り口として探求型の道徳授業を提案する。道徳における探求型授業は「知りたい、調べたい」という思いをもって道徳的問題についての考えを見つめる授業である。本提案では、「伝統・文化・郷土愛」に焦点を当てる。

英語

『コロナ禍での言語活動への挑戦』
～高学年 Flipgrid を活用した実践から～

授業者
提案者

中村 香

講師

東京学芸大学特任准教授
白土厚子 先生

学習指導要領の全面実施に伴い、高学年の英語は教科となった。これまで以上に、「コミュニケーションの一層の充実」と、「知識と技能の習得」が求められている。コロナ禍の影響で、授業時数の減少だけでなく学習活動への制限もある中、教育プラットフォームアプリ Flipgrid を活用した言語活動に挑戦した。本実践提案をもとに、with コロナでのコミュニケーション言語活動やそこでの子どもの学びについて考えていく。

ICT

GIGA スクールのキラーアプリ
学習者用デジタル教科書

授業者
提案者

鈴木秀樹

講師

放送大学教授
中川一史 先生

GIGA スクール時代が始まり、児童は一人一台のタブレットを手にするようになりつつある。このタブレットを死蔵させることなく毎日使われるようになるために、もっとも手取り早いのは学習者用デジタル教科書を導入することではないだろうか。本セッションでは、主に国語を例に学習者用デジタル教科書を活用してどのように授業を行ったかを紹介しつつ、その効果的な活用法を探る。

時程

12:30

受付

13:30

教科部提案・協議会

15:00

講評・講演

16:00